



Inclusive support

地域包括支援センター

行方市地域包括支援センター

☎0299-55-0114

いつまでも健やかに住み慣れた地域で生活していけるよう、高齢者やご家族の皆さんを、医療・保険・介護および福祉など、さまざまな方面から総合的に支援します。

9月は「認知症を知る月間」です

日本人の平均寿命は世界トップレベルですが、一方で、長寿になれば認知症にかかる可能性は高くなります。これは、認知症が老化と深く関係しているからです。厚生労働省研究班の調査では、85歳では約5割、95歳では約8割の人が認知症と考えられています。

みんなで支え合うことが求められています。

今日の日本では、高齢期を一人や夫婦のみで暮らす方が増えており、行方市も例外ではありません。そのため、認知症になったとき、家族だけでサポートするのはほとんど不可能になっています。また、家族だけで認知症の人を支えない方が、患者と家族が良い関係を保てることがわかっています。

認知症の人との接し方

◆「本人は何もわかっていない」は誤りです◆

もの忘れが増えたり、今までできていたことができなくなったりする変化に、誰よりも本人が驚き、混乱しているのです。まず、その気持ちを思いやりましょう。

「どうせわからないのだから」という乱暴なものの言い方や態度、子ども扱いなどは、認知症の人の自尊心を傷つけ、感情が不安定になり、攻撃的な行動へのきっかけになることがあります。

◆「その人らしさ」を大切にしましょう◆

「認知症だからこうに違いない」などと接し方を決めつけるのは避けましょう。

人は「自分らしさ」が尊重されていると感じられる環境であれば、安心して過ごすことができるものです。「認知症の人」としてではなく、「その人らしさ」を大切に接しましょう。

◆「否定よりも肯定」の気持ちで接しましょう◆

介護者は、認知症の人の思わぬ言動に戸惑うことがあります。そのなかで、間違いや失敗などがあつた時に強く否定をしたり、説得を試みたりすると、認知症の人の罪悪感や孤独感を募らせてしまいます。認知症の人が失敗を怖れず、に、自立に向けたチャレンジができる環境づくりが大切です。

介護者は常に悩み、不安になります。愚痴もたまります。何かあれば地域包括支援センターにご相談ください。



認知症のことを知り、支えていくために、行方市では認知症の方を支えるサポーターを養成します。今年度も下記のように予定していますので興味のある方は是非ご参加ください。

<認知症サポーター養成講座>

認知症の基礎知識・対処方法を学びます。

開催日 令和2年9月11日(金)

時間 午後1時30分～午後3時

場所 行方市地域包括支援センター
(旧玉造保健センター)



※開催の変更がある場合があります。0299-55-0114 までお問い合わせください。